



信太の森ニュース

No. 22

2015年11月8日



和泉市・公園協議会主催の観察会（惣ヶ池湿地）

この夏は二重連、三重連の台風が発生し、全国各地に記録的な大雨をもたらし、鬼怒川の氾濫に見られるように大きな災害となりました。温暖化による海水温の上昇でこうした異常気象の多発となったようです。

信太山丘陵では今年はやや雨の日が多かったことで、惣ヶ池湿地の池が干上がることもなく、水辺の生き物たちには快適な水辺を提供したようです。

しかし、信太山丘陵では温暖化の影響かと思われるような出来事がありました。前号編集後記にも記しましたが、梅雨真最中の6月

14日に鶴山台でヒグラシが鳴きました。会員のSさんから「今朝鳴いてましたで」と聞いたときは我耳を疑ったくらいで、その夕刻我が家の前で聞きました。3日間鳴いていましたが、ヒグラシはヒノキなど針葉樹林で生息しているのが普通で不思議なことです。ヒグラシばかりか、6月28日の観察会では、クマゼミの鳴き声が観察されました。これもかなり早い出現です。

地球の温暖化は確実に進んでいます。だからと言ってC \blacksquare を排出さない原発の再稼働が許されるものではありません。地震大国でなくとも、一つ間違えれば人も住めなくなる危険性があるからです。

NPO法人 信太の森FANクラブ

事務局：〒594-0013 大阪府和泉市鶴山台3丁目4番1-202

電話 0725-45-7357

E-mail tamahati@amber.plala.or.jp

訃報

Eメールが可能な方には既にお知らせしておりますが、当FANクラブの生みの親であり代表であった花田茂義さんが9月29日急逝されました。

昨年夏頃より肺せん癌で治療を続けておられ、半月前には温泉療養の下見で数日の旅行をされたばかりでした。

花田代表にあっては、聖神社のシリブカガシを守る運動をはじめ当クラブの代表として、また信太山に自然公園を求める連絡会事務局として信太山丘陵の自然保護運動の中心的役割を果たしてこられました。

その結果、信太山丘陵市有地の自然公園化構想が決まり、10年先の開園とはいえ、今年4月から公園づくりがスタートしたばかりでした。

信太山丘陵の自然保護に情熱を傾けてこられただけに、開園を見ずして逝かれた花田代表のお気持ちを考えると残念ではありません。

ご冥福をお祈りします。



公園協議会主催観察会開催される

4月からスタートした信太山丘陵市有地公園協議会行事の一環として、7月26日(日)に観察会が開催されました。

この日は晴天に恵まれ、会員7名、子ども5名を含む23名が参加し、市有地内と惣ヶ池湿地を観察しました。

この観察会は、FANクラブが市から観察会講師の依頼を受けて実施することになりました。これは、FANクラブがNPO法人となって、はじめて外部から委託をうけて実施したもので、開催にあたり



会員の得意分野を表したネームプレートを準備し、当日はこのネームプレートを付け、これまでの観察会でそれぞれが培ったノウハウを活かして案内に努めました。

公園予定地の保全作業

公園協議会による公園予定地(Sゾーン)の作業は、8、9月の暑い時期を除き、7月11日、10月4日、11月1日に実施されました。

7月は参加者も少なく、7月26日の観察会の観察路を確保するために枯れ松倒木の整理と笹刈りを行いました。

10月、11月は、FANクラブ会員の参加者もそれぞれ12名、13名と多く参加していただき、Sゾーンの中を通る車道西側の草地(草原)復元予定地(これまでに部分的に草刈を行っていた)地の

ネザサを刈り、草地復元予定地をさらに拡大しました。



これまでは、試験区的な草刈でしたが、この2ヶ月の草刈で大きな広場ができ、公園予定地整備がいよいよ始まったという感じを受けました。

特に11月の作業日は、作業開始前に当FANクラブ会員の尾崎公則さんを講師に保全作業における安全講習を1時間行いました。

これは、これまでの保全作業時に怪我までには至らなくとも、適切な作業間隔が保たれていないなど危険性をはらんでいたことから公園協議会の中で開催を求めていたものです。

なお、12月6日(日)の保全作業日はキックオフイベントとして開催されます。その内容は現在検討中で、市長も出席して開催される予定です。

惣ヶ池湿地にサギソウ

今年惣ヶ池湿地では、サギソウが一輪咲きました。「エッ！惣ヶ池湿地にサギソウがあったかな？」と思われる方が殆どでしょう。

実は、5年位前に花田さん、島崎さん、園芸店勤務の青年Tさんと4人で信太山丘陵のサギソウを絶滅から守るために、信太山丘陵の原種の種子を採取し、無菌培養で育て、現地移植を試みる計画をしてきました。花田さん曰く「SSプロジェクト」です。無菌培養したものは、これまで花田さんが育ててこられたのですが、今年3月末にその球根

をSゾーンに20球、惣ヶ池湿地に10球の移植を試みました。その結果、どちらも7割方発芽しましたが、咲いたのは惣ヶ池湿地の一株一輪だけでした。その一輪のその花も数日後には誰かに摘み採られたということでした。

花田さんご生存中にその報告はしておいたのですが、残念ながら一月も経ないうちに旅立たれてしまいました。

花田さん亡き後、花田さんの自宅に残された無菌培養球根を信太山丘陵に根付かせるべく、Tさんとも連絡をとりました。花田さんの夢をなんとか実現させたいと考えています。

今後の役員体制について

10月8日、21日の両日、理事会を開催し、FANクラブ代表、事務局の後任を話し合いました。その結果、代表にはこれまでの事務局田丸が、事務局には吉原規明さんが選ばれました。会計はこれまでどおり島崎舜二さんが担当します。

事務局については、次期総会までに役割分担を決め、徐々に引き継ぐこととして、その任務に当たることになりました。

ご協力よろしくお願いいたします。

公園協議会キックオフイベント

公園協議会の発足を記念するイベントとして、12月6日(日)にキックオフイベントが開催されます。(和泉市広報掲載)内容は、観察班と草刈班に分かれ、市有地内観察と草刈作業をおこなった後、豚汁の炊き出しを行うことにしています。多くの方の参加をよろしくお願いいたします。参加人数の確認が必要ですので、参加できる方は田丸までご連絡をお願いします。

日時 12月6日(日) 10時集合
場所 市有地ゲート内
携行品 弁当、豚汁用お椀、シート
服装 作業ができる服装でご参加を

花田茂義さんを偲んで

大きな大黒柱を突然失ったような気がします。受話器の向こうから届いた花田代表の訃報に一瞬「えっ！」としか声が出なく、立っている足から力が抜けていきました。身体の不調は以前からお聞きしていましたが、こんなにも急に逝かれるとは。

私が花田代表に初めてお会いしたのは「信太の森ふるさと館」で信太山ネイチャークラブの指導をなさっていた頃でした。

私が自然環境に関心を持ち、子ども達と一緒に観察や工作を始めた頃、子ども達にどのように接したらよいか悩んでいたときで、いい機会だと参加しました。花田先生の指導を見て多くのことを学ぶことができました。そして今日に至っています。

この間多くの出来事が駆け巡りました。花田先生は、信太山丘陵の自然や歴史に関する豊富な知識を持たれ、信太山丘陵をこよなく愛されていましたが、ここに「大型スポーツ施設建設」の話が持ち上がったことで、信太の森FANクラブの結成や信太山丘陵に里山自然公園を求める連絡会の立ち上げなど信太山丘陵の自然を守る運動の中心的役割を担ってこられました。その結果、信太山丘陵市有地は自然公園として残ることとなり、今年4月から「信太山丘陵市有地公園協議会」が発足し、これからという矢先に逝かれたことは残念でなりません。

私の心に残る花田先生との思い出の一つに市有地内の「ツツジの丘」の草刈があります。二人だけで一緒に汗を流しました。これは信太山丘陵市有地の公園化が決まる以前のことです。

その成果があって、それ以来毎年見事な花を

咲かせています。

「花田先生」という私に「花田と呼んでくれ」といつも言っておられましたが、私にとってはやはり「花田先生」が合います。

花田先生、ご冥福をお祈り申し上げます。

(島崎舜次)



突然の訃報に驚きましたが、同時に花田さんとの出会いからお別れまでの事柄が走馬灯のように頭の中を巡りました。

最初の出会いは30数年前に管理組合の仕事を一緒にした時でしたが、その後転居されたので永らくお会いする機会はありませんでした。

二度目の出会いは、リタイアしたら地元で恩返しをせよとの先輩の命令？で、信太の森ふるさと館を訪れた時でした。

花田さんはそこで学芸員をされていましたが、私のことをよく覚えて下さっていて、びっくりすると共に人の出会いの不思議さに驚いたものです。

それが縁で、信太の森ネイチャークラブのお手伝いをする事になり、指導員という肩書を付けてもらったものの、植物や鳥の名前などの知識が皆無で、子どもたちと一緒に学ぶというのがスタートでしたが、自然の素晴らしさを知り感激の連続でした。

第二の人生を歩み始めた私に、自然という新しい世界の扉を開けてくれた花田さんは大恩人です。どうか天国から信太の森の自然をいつまでも見守って下さい。 合掌

(本田信美)